

日本における留学生在籍の現状

本稿では、日本における留学生の現状について日本学生支援機構（JASSO）の各種データを引用して俯瞰したい。

※データは全て調査概要欄に示す JASSO 該当調査より引用・一部編集部にて加工

カレッジマネジメント編集部
鹿島 梓



1 高等教育における留学生受け入れの現状

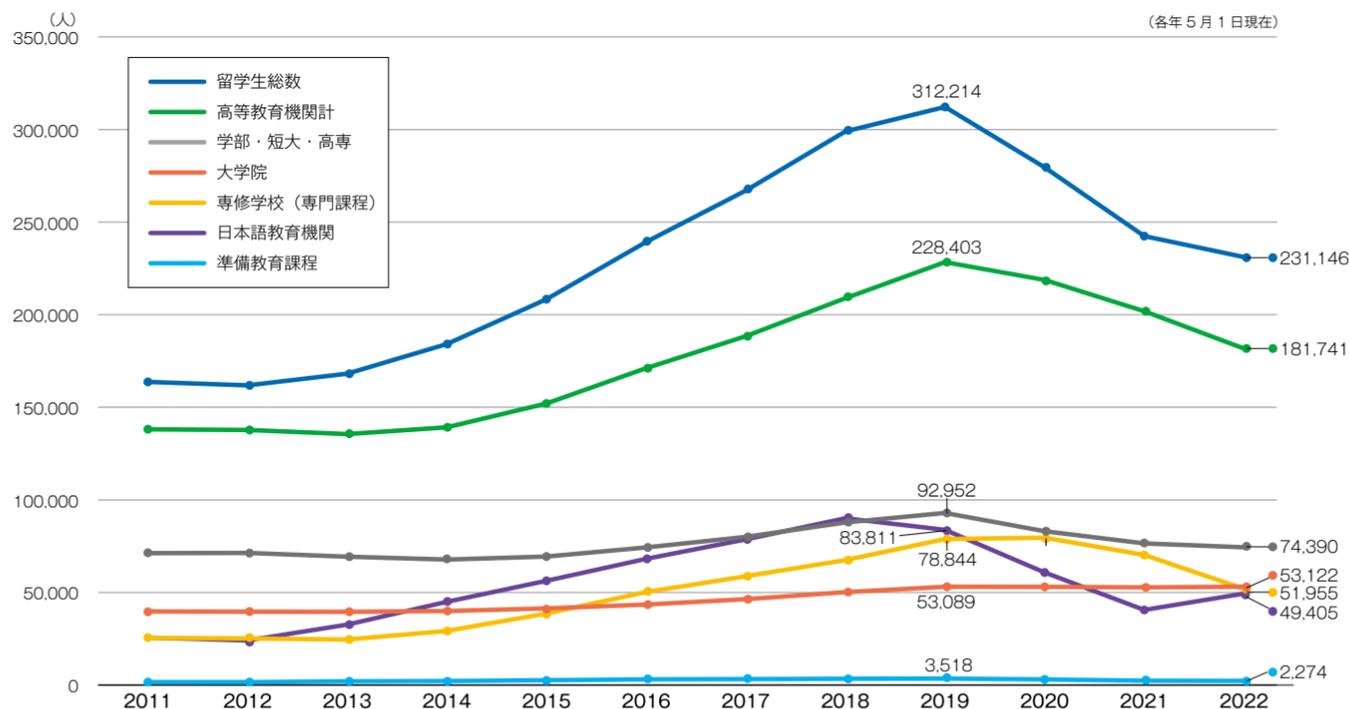
2022年の留学生総数約23万人は2016年と同水準

まず、図表1で数量的なデータの確認をしておきたい。2022年5月1日現在の留学生総数は231,146人(国費・政府派遣・私費留学生の合計)であり、2021年同日と比較すると、11,298人(4.7%)の減少である。うち、高等教育機関に在籍する外国人留学生数は181,741人(20,136人(10.0%)減)、日本語教育機関に在籍する外国人留学生数は49,405人(8,838人(21.8%)増)となっている。

調査概要 外国人留学生在籍状況調査 (2019～2022)
 調査目的：外国人留学生の在籍状況を把握し、留学生施策に関する基礎資料を得ること
 調査頻度：毎年実施(調査実施年度の5月1日)
 調査対象：大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)、大学入学準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関
 主な調査内容：留学生数【国地域別、男女別、国公立別、在学段階別、専攻分野別、地方別・都道府県別】、留学生宿舍の状況

近年で留学生数が最多だったのは2019年の312,214人。2008年にグローバル戦略展開の一環で策定され、2020年までに留学生受け入れ30万人を目指すとした「留学生30万人計画」を、1年前に達成した数値である。この時、学部・短大・高専の在籍者数も最多の92,952人となっ

図表1 大学院・大学(学部)・短期大学・高等専門学校・専修学校(専門課程)・準備教育課程・日本語教育機関における留学生の推移



※ JASSO 2022 (令和4) 年度外国人留学生在籍状況調査結果 2Pより 2011年以降の値を編集部で作図

たが、翌年以降コロナを機に約1万8000人減少した。大学院はコロナ禍においてもあまり減少しなかった(2019年53,089人→2020年53,056人→2022年53,122人)一方で、学部・短大・高専は大きく減少しており(2019年92,952人→2022年74,390人)、専修学校(専門課程)も同様の傾向が見られる(2019年78,844人→2022年51,955人)。2022年時点の留学生数は、2016年頃の水準に戻っている状態だ。

全体の9割以上はアジアからの留学生

次に、日本で学ぶ留学生の出身地を確認しよう。図表2で地域別に見ると、全体の9割以上がアジアからの留学生であり、欧米他地域からの留学生数は極めて少ない。特に国際社会において重要性が年々上昇し、ますますの経済成長が期待されるだけでなく高等教育進学者数も急増しているアフリカの占める割合は、あまりにも低い。国連によると、アフリカは現在の人口が約14億人(世界全体の約18%)だが、2050年には24億人を超えると言われている。平均年齢も現在の日本が約49歳なのに対し、アフリカは約19歳と非常に若く、高等教育ニーズが高い。距離が遠く関係性においても旧宗主国等とは並び立てない日本だが、今後留学生マーケットとしての存在感は増すばかりであろう。

図表3の出身国別留学生数の上位10位を見ると、近年は4割前後が中国からの留学生であると分かる。2019年以降の上位5位は中国、ベトナム、ネパール、韓国、インドネシアまたは台湾と顔ぶれが変わっていない。ただし、こうした国々に対する日本の大学の優位性が必ずしも高いわけではないだろう。Times Higher Education等の国際ランキングでは、日本でランキングトップの東京大学よりも上位に、清華大学や北京大学(共に中国)、シンガポール国立大学や南洋理工大学(共にシンガポール)、香港大学(香港)等が並ぶ。現在日本で学んでいる留學生が何を求めて来日したのか、何が決め手で本学を選んだのかといった点を押さえたうえで、相対的に劣位になりつつある現状において、グローバルに見た時の競合設定やベンチマークを精査し、選ばれるためには何を重視すべきかを考える必要がある。

23万人のうち11万人は関東、うち8万人は東京都に所在

では、日本を選ぶ留學生はどこにきているのだろうか。まず図表4で地方別・都道府県別留学者数を確認したい。2022年の留学生総数231,146人のうち、およそ半数に当たる110,524人(47.8%)が関東、うち78,957人が東京に集まる。1万人を超える都道府県は東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県の6都府県で、東京以外は西日

図表2 出身地域別留学生数の推移 (2019-2022)

地域	2019		2020		2021		2022	
	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
アジア	292,317	93.6%	264,420	94.6%	230,550	95.1%	214,858	93.0%
欧州	10,345	3.3%	7,809	2.8%	5,622	2.3%	8,583	3.7%
北米	3,437	1.1%	2,085	0.7%	1,432	0.6%	1,972	0.9%
アフリカ	2,247	0.7%	2,070	0.7%	2,005	0.8%	2,273	1.0%
中南米	1,718	0.6%	1,550	0.6%	1,337	0.6%	1,819	0.8%
中東	1,367	0.4%	1,192	0.4%	1,077	0.4%	1,143	0.5%
大洋州	771	0.2%	462	0.2%	413	0.2%	491	0.2%
その他(無国籍)	12	0.0%	9	0.0%	8	0.0%	7	0.0%
合計	312,214	100.0%	279,597	100.0%	242,444	100.0%	231,146	100.0%

図表3 出身国別留学生数の上位10位推移 (2019-2022)

順位	国	2019		2020		2021		2022	
		留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
1位	中国	124,436	39.9%	121,845	43.6%	114,255	47.1%	103,882	44.9%
2位	ベトナム	73,389	23.5%	62,233	22.3%	49,469	20.4%	37,405	16.2%
3位	ネパール	26,308	8.4%	24,002	8.6%	18,825	7.8%	24,257	10.5%
4位	韓国	18,338	5.9%	15,785	5.6%	14,247	5.9%	13,701	5.9%
5位	台湾	9,584	3.1%	7,088	2.5%	5,792	2.4%	5,763	2.5%
6位	スリランカ	7,240	2.3%	6,199	2.2%	4,887	2.0%	5,015	2.2%
7位	インドネシア	6,756	2.2%	5,238	1.9%	3,762	1.6%	3,857	1.7%
8位	ミャンマー	5,383	1.7%	4,211	1.5%	3,496	1.4%	3,813	1.6%
9位	タイ	3,847	1.2%	3,098	1.1%	3,095	1.3%	3,313	1.4%
10位	バングラデシュ	3,527	1.1%	3,075	1.1%	2,619	1.1%	2,959	1.3%

本に集中している。留学生が少ない県は、当然留学生の受け皿となる高等教育機関が少ないと考えられる。なかには、留学生自体は歓迎するものの、留学生のニーズに合った学部学科等がない、英語で履修できるプログラムがない、学生寮や奨学金をはじめとする生活面での支援が未整備といったソフト面・ハード面の問題があるかもしれない。

図表5では具体的に留学生を集めている大学の上位10位を経年で並べた。研究大学である旧帝大に加え、早稲田大学、立命館大学、日本経済大学といった私立大学も名を

連ねている。例年のランキングでも大きな変動はない。

図表6では留学生が在籍する分野を経年で並べた。母数は年によって異なるが、概ねそれぞれ全体の3割前後を占めるのが人文科学と社会科学で、理学・工学・農学といった成長分野関連は2割程度というのが現状である。国が推進する成長分野注力の動きは、全体の数からは見えてくず、個々の大学の研究力や教育力に期待する一定の層はいても、日本という国自体がそうした分野において選ばれていない可能性が高い。

図表4 地方別・都道府県別留学生数 (2022)

地方名	留学生数	構成比	都道府県	留学生数	地方名	留学生数	構成比	都道府県	留学生数	
北海道	4,026	1.7%	北海道	4,026	三重	1,694	近畿	三重	1,694	
東北	6,375	2.8%	青森	399	滋賀	542		京都	14,205	
			岩手	559	大阪	21,190				
			宮城	3,953	兵庫	10,633				
			秋田	337	奈良	1,506				
			山形	279	和歌山	475				
			福島	848	鳥取	329				
関東	110,524	47.8%	茨城	3,755	島根	346		中国	岡山	3,229
			栃木	2,026	広島	3,828				
			群馬	3,309	山口	1,987				
			埼玉	8,951	徳島	558				
			千葉	7,280	香川	618				
			東京	78,957	愛媛	336				
			神奈川	6,246	高知	210				
中部	22,150	9.6%	新潟	1,824	福岡	15,955	九州		佐賀	737
			富山	486	長崎	1,833				
			石川	1,800	熊本	973				
			福井	498	大分	3,245				
			山梨	1,252	宮崎	503				
			長野	969	鹿児島	1,122				
			岐阜	1,862	沖縄	2,017				
			静岡	3,337	計	231,146				
			愛知	10,122						

※大学の学部等が複数の都道府県に所在する場合、本部所在地で集計

図表5 留学生受け入れ数の多い大学の上位10位推移 (2019-2022)

順位	2019		2020		2021		2022	
	大学名	留学生数	大学名	留学生数	大学名	留学生数	大学名	留学生数
1位	早稲田大学	5,724	早稲田大学	4,742	東京大学	4,084	東京大学	4,397
2位	東京福祉大学	4,273	東京大学	4,076	早稲田大学	3,967	早稲田大学	4,208
3位	東京大学	4,178	日本経済大学	3,355	日本経済大学	2,984	立命館大学	2,698
4位	日本経済大学	3,487	京都大学	2,600	立命館大学	2,752	日本経済大学	2,599
5位	立命館アジア太平洋大学	2,759	大阪大学	2,521	京都大学	2,493	京都大学	2,564
6位	立命館大学	2,673	立命館アジア太平洋大学	2,509	立命館アジア太平洋大学	2,465	大阪大学	2,514
7位	京都大学	2,631	立命館大学	2,462	大阪大学	2,408	立命館アジア太平洋大学	2,392
8位	大阪大学	2,594	九州大学	2,328	九州大学	2,261	九州大学	2,359
9位	九州大学	2,387	筑波大学	2,247	筑波大学	2,171	筑波大学	2,189
10位	筑波大学	2,372	東北大学	2,081	東北大学	2,044	東北大学	2,074

図表6 専攻分野別留学生数 (2019-2022)

専攻分野	2019		2020		2021		2022	
	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
人文科学	133,061	42.6%	100,887	36.1%	72,954	30.1%	80,291	34.7%
社会科学	84,714	27.1%	81,975	29.3%	76,301	31.5%	63,096	27.3%
理学	4,305	1.4%	4,255	1.5%	4,413	1.8%	4,361	1.9%
工学	40,145	12.9%	41,780	14.9%	41,009	16.9%	37,487	16.2%
農学	4,059	1.3%	4,075	1.5%	4,094	1.7%	4,200	1.8%
保健	5,466	1.8%	5,869	2.1%	5,990	2.5%	5,829	2.5%
家政	5,460	1.7%	5,874	2.1%	4,159	1.7%	3,921	1.7%
教育	3,536	1.1%	3,157	1.1%	2,941	1.2%	2,854	1.2%
芸術	11,901	3.8%	13,089	4.7%	13,361	5.5%	10,855	4.7%
その他	19,567	6.3%	18,636	6.7%	17,222	7.1%	18,252	7.9%
計	312,214	100.0%	279,597	100.0%	242,444	100.0%	231,146	100.0%

2 留学生はなぜ日本を選ぶのか

第2章では、留学生の「留学の目的」「日本を留学先として選んだ理由」等についてデータを見ていきたい。特に指定

がない図表は「2021(令和3)年度 私費外国人留学生生活実態調査」による。

調査概要 2021(令和3)年度 私費外国人留学生生活実態調査											
調査目的: 日本で学ぶ私費外国人留学生の標準的な生活の状況と経済的な実状等を把握する						有効回答者数: 7,321人 (回答率 81.3%)					
調査実施時期: 2022(令和4)年1月~3月						調査方法: ウェブシステム上のアンケート項目に無記名回答					
調査対象: 調査協力校に在籍する私費外国人留学生を無作為抽出した9,000人						調査頻度: 隔年実施					
回答者の在籍学校別内訳						※ SAは単一回答、MAは複数回答					
区分	大学				短期大学	専修学校(専門課程)	準備教育課程	高等教育機関計	日本語教育機関	計	※有効回答者数7,321人 ※率は、回答者数の計(7,321人)を100とした割合
	国立	公立	私立	大学計							
調査対象者数(人)	1,120	130	2,770	4,020	100	2,690	110	6,920	2,080	9,000	
回答者数(人)	883	125	2,295	3,303	89	2,139	92	5,623	1,698	7,321	
率(%)	12.1	1.7	31.3	45.1	1.2	29.2	1.3	76.8	23.2	100.0	
回収率(%)	78.8	96.2	82.9	82.2	89.0	79.5	83.6	81.3	81.6	81.3	

図表7 留学の目的 (MA)

区分	学位を取得する	教養を身につける	就職に必要な技能や知識を身につける	日本で働く、もしくは日本企業に就職する	国際的な経験を積んで国際的な人脈を作る	国際的な考え方を身につける	良い環境で研究を行う	日本語の能力を高める	異文化に接する	その他	不明
集計 pt	9,211	4,335	5,856	7,650	3,276	2,541	1,528	3,213	2,376	104	-
集計 pt 率 (%)	23.0	10.8	14.6	19.1	8.2	6.3	3.8	8.0	5.9	0.3	-
人数 (人)	3,439	1,929	2,713	3,533	1,819	1,488	886	1,882	1,526	49	-
率 (%)	47.0	26.3	37.1	48.3	24.8	20.3	12.1	25.7	20.8	0.7	-
2019年率 (%)	50.8	20.6	42.9	45.0	23.9	20.7	12.9	30.8	21.1	0.6	-
2017年率 (%)	52.5	25.9	49.4	46.2	29.8	30.8	9.7	22.0	17.2	0.9	0.2

※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (40,090) を 100 とした割合

図表8 日本を留学先として選んだ理由 (MA)

区分	日本社会に興味があり、日本で生活したかった	日本の大学等の教育や研究が魅力的と思った	地理的に近い	興味ある専門分野があった	異文化に接したかった	日本語・日本文化を勉強したかった	日本に関連のある職業に就きたかった	奨学金を得られた	友人・知人・家族等に勧められた	大学間交流等をきっかけとして	他の国も考えていたが、学力や費用等の条件が一番合った	その他	不明
集計 pt	12,161	6,281	2,452	3,687	2,924	5,976	1,994	500	1,969	473	1,709	172	-
集計 pt 率 (%)	30.2	15.6	6.1	9.1	7.3	14.8	4.9	1.2	4.9	1.2	4.2	0.4	-
人数 (人)	4,695	2,763	1,296	1,830	1,637	3,123	1,194	269	1,072	271	1,047	82	-
率 (%)	64.1	37.7	17.7	25.0	22.4	42.7	16.3	3.7	14.6	3.7	14.3	1.1	-
2019年率 (%)	61.3	36.3	17.0	23.7	20.1	44.3	19.4	5.6	15.8	5.2	15.9	1.3	-
2017年率 (%)	60.8	34.1	17.5	23.6	23.7	48.2	24.5	5.5	18.4	4.9	16.8	1.5	0.3

※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (40,298) を 100 とした割合

図表9 留学するに当たり不安に感じていたこと (MA)

区分	日本の天候や食べ物、習慣に適應できるか	自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるか	周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるか	適切な宿舎を確保できるか	病気にかかったり自然災害に遭ったりしないか	孤独に感じたりホームシックになつたりしないか	経済的な困難に直面しないか	特に不安はなかった	その他	不明
集計 pt	4,391	8,556	7,732	981	4,660	3,528	5,932	2,221	143	-
集計 pt 率 (%)	11.5	22.4	20.3	2.6	12.2	9.2	15.6	5.8	0.4	-
人数 (人)	1,794	3,563	3,573	527	2,332	1,859	3,095	891	66	-
率 (%)	24.5	48.7	48.8	7.2	31.9	25.4	42.3	12.2	0.9	-
2019年率 (%)	27.1	47.4	49.4	9.2	27.7	22.6	37.8	15.4	1.0	0.0
2017年率 (%)	27.7	52.2	52.7	12.3	26.6	24.0	41.8	14.3	1.6	0.3

※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (38,144) を 100 とした割合

「学ぶ」の先に「働く」を見据えた留学意向

まずは何が目的で日本まで留学してきたのか(図表7)。1位は就職・就労 3,533人(48.3%)、2位は学位取得 3,439人(47.0%)、3位は就職に必要な技能・知識の習得 2,713人(37.1%)。1位・3位を見るに、学ぶこと自体が目的というより、学んだ先に働くことを見据えて来ている人が多いようだ。図表4で東京都の留学生数を確認したが、大学数の多さのみならず、こうした「働く」を見据えた時に、外資系企業や外国人労働者求人数等の就職機会が多い東京に多く来ているという面もありそうだ。

社会や文化への興味から留学先に日本を選ぶ

日本を選んだ理由については(図表8)、1位 日本社会に興味があり、日本で生活したかった 4,695人(64.1%)、2位 日本語・日本文化を勉強したかった 3,123人(42.7%)、3位 日本の大学等の教育や研究が魅力的と思った 2,763人(37.7%)となっている。日本社会や文化に興味を持つことを入口に、日本で学びたい、もしくは日本で生

活すること自体が目的となっている人が多いようだ。

留学前は周囲との関係性を不安視

留学するに当たり不安に感じていたことでは(図表9)、1位 周囲の人と良好な関係を築き、うまくコミュニケーションをとることができるか 3,573人(48.8%)、2位 自分の希望する学習ができるか、また、学習の成果を上げることができるか 3,563人(48.7%)、3位 経済的な困難に直面しないか 3,095人(42.3%)となった。人間関係や教育・生活への不安が上位となり、未知の世界に飛び込もうとする留学生の等身大の悩みが見て取れる。留学先の高等教育機関はこうした悩みに誠実に向き合う必要があり、後ページにご紹介する「現在留学生を多く集めている学校」事例校は、どこもこうした支援体制が細やかで充実している印象だ。

留学情報はまず身の周りの人に相談

留学情報の入手方法では(図表10)、1位 親戚や友人に相談 3,076人(42.0%)、2位 母国の学校や教員に相談 2,612人(35.7%)、3位 インターネットを利用して学

校や日本学生支援機構(JASSO)のHPを検索 2,282人(31.2%)となる。まず家族や学校等の身の回りの人に相談するという人が多いようだが、図表11に示すリクルート進学センサスによると、高校生において進学情報入手は「進学情報誌やDM」「オープンキャンパス」「学校のパンフレット」といった資料等の情報がトップ3であり、その次に「(高校の)先生からのアドバイス」が高い。情報が多く出回っている国内進学の市場においては一次情報の取得が容易だが、多言語最適化された情報が多くいわけではないあるいは自分にとって他国の最適な学校を選ぶ軸足を定めづらい留学生にとっては、まず自分に近いところから相談を始めていく傾向があるのだろう。

留学した結果良かったことは日本語と国際的な思考の習得

留学した結果、良かったことは何だったのか(図表12-1、12-2)。留学した印象が「良かった」と答えた6,988人について、何が良かったのかを問うと、1位 日本語が習得できたこと 4,540人(65.0%)、2位 国際的な考え方・教養を身につけることができたこと 4,226人(60.5%)、3位 質の高い教育を受けられたこと 3,664人(52.4%)となっ

ている。留学目的で就職・就労に関する期待が高かったことに比べると、実際に「良かったこと」は教育そのものから享受されるメリットが並んでいる。これは在籍中の学生対象のアンケートであることも大きいだろう。

卒業したら日本で働きたい人が過半数

卒業後の進路希望を問うた項目では(図表13)、1位 日本において就職希望 4,243人(58.0%)、2位 日本において進学希望 3,135人(42.8%)が、帰国して進学あるいは就職・起業を希望する人よりもはるかに高い値となっている。準備機関や日本語教育機関は進学が多いのが前提となるが、大学や大学院を卒業した後も日本に定着したい層が相当数いる。各教育機関にはこうした多彩なキャリアパスに対応したキャリア支援が求められる。地元企業で外国人労働者に門戸を開いている企業はどのくらいあるだろうか。在学中にコミュニケーションを深めるフィールドワーク等の機会があっただろうか。そうした企業が前向きに採用を検討するための学修成果の可視化はどうなっているだろうか。個々の大学の取り組みのみならず、日本全体として、定着も含めた留学生関連の取り組み充実が期待される。

図表 10 留学情報の入手方法 (MA)

区分	日本留学フェア教育展等に参加	入学を希望する学校に直接問い合わせ	在外日本大使館等の在外公館に問い合わせ	母国の政府教育機関に問い合わせ	日本学生支援機構(JASSO)に問い合わせ	インターネットを利用して学校やJASSOのHPを検索	その他の民間団体問い合わせ	日本の出版物を購入	母国の学校や教員に相談	親戚や友人に相談	その他	不明
集計 pt	4,984	4,809	855	2,357	629	5,142	3,705	667	5,891	6,314	372	-
集計 pt 率 (%)	14.0	13.5	2.4	6.6	1.8	14.4	10.4	1.9	16.5	17.7	1.0	-
人数 (人)	2,008	2,030	422	1,021	309	2,282	1,610	379	2,612	3,076	165	-
率 (%)	27.4	27.7	5.8	13.9	4.2	31.2	22.0	5.2	35.7	42.0	2.3	-
2019年率 (%)	25.3	29.7	5.8	12.6	4.1	35.7	18.4	5.2	32.0	42.0	2.5	0.0
2017年率 (%)	27.0	29.1	5.2	11.2	3.7	44.8	19.9	6.6	34.3	47.5	3.8	0.4

※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (35,725) を 100 とした割合
※率は、回答者数の計 (7,321 人) を 100 とした割合

図表 11 高校生の進学に関する情報源 (MA) リクルート進学センサス 2022 より

	進学情報誌やDM	オープンキャンパス	学校のパンフレット	先生からのアドバイス	進学情報サイト(スマホ)	各学校のHP(スマホ)	家族からのアドバイス	学校内の進学説明会・ガイダンス	学校のHP(PC)	友人からのアドバイス	先生が作った資料	進学情報サイト(PC)	塾からのアドバイス	塾で配布された資料	各校外の進学説明会・ガイダンス
進学者(浪人含) n=13996	63.8	47.7	42.7	41.4	39.1	39.0	25.8	22.8	19.6	17.4	16.5	16.2	15.4	11.5	11.5
大学進学者 n=10841	65.0	44.4	42.7	45.2	40.3	39.5	26.7	22.8	21.3	18.2	18.8	17.5	18.4	13.5	11.4
短大進学者 n=545	61.5	60.4	44.6	35.4	35.8	40.7	24.6	23.1	14.5	14.1	8.1	9.0	2.2	2.0	13.6
専門学校進学者 n=2183	60.4	64.5	43.5	24.8	33.2	36.8	22.9	23.9	12.5	13.1	6.8	10.1	1.9	1.8	12.3

図表 12-1 日本へ留学しての全体的な印象(SA)

区分	良かった	悪かった	どちらとも言えない	不明	計
人数(人)	6,988	28	305	-	7,321
率(%)	95.5	0.4	4.2	-	100.0
2019年率(%)	92.7	0.7	6.6	-	100.0
2017年率(%)	92.0	1.2	6.1	0.7	100.0

※率は、回答者数の計(7,321人)を100とした割合

図表 12-2 留学して良かったこと (MA)

区分	質の高い教育を受けられたこと	日本語が習得できたこと	日本人の友人ができたこと	国際的な人脈ができたこと	国際的な考え方・教養を身につけることができたこと	その他	不明
集計 pt	9,165	10,691	4,491	3,695	8,169	241	-
集計 pt 率 (%)	25.1	29.3	12.3	10.1	22.4	0.7	-
人数(人)	3,664	4,540	2,361	2,037	4,226	120	-
率(%)	52.4	65.0	33.8	29.1	60.5	1.7	-
2019年率(%)	50.4	60.1	36.6	32.7	55.2	2.0	0.0
2017年率(%)	54.9	65.3	41.0	35.7	67.1	3.2	0.0

※有効回答者は、図表 11-1 の回答者 (7,321 人) のうち、「良かった」と回答した数 (6,988 人)
※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (36,452) を 100 とした割合
※率は、回答者数の計 (6,988 人) を 100 とした割合

図表 13 卒業後の進路希望 (MA)

区分	日本で進学希望	日本で就職希望	日本で起業希望	出身国で進学希望	出身国で就職・起業希望	日本・出身国以外の国で進学希望	日本・出身国以外の国で就職・起業希望	まだ決めていない	不明
集計 pt	8,938	11,730	1,284	543	2,409	744	610	1,182	-
集計 pt 率 (%)	32.6	42.7	4.7	2.0	8.8	2.7	2.2	4.3	-
人数(人)	3,135	4,243	671	251	1,095	396	339	498	-
率(%)	42.8	58.0	9.2	3.4	15.0	5.4	4.6	6.8	-
2019年率(%)	41.4	54.9	9.6	4.7	19.4	6.7	6.4	5.0	0.0
2017年率(%)	51.5	64.6	10.6	5.7	18.5	6.2	5.2	5.2	1.0

※集計 pt は、最も当てはまるものを 3pt、2 番目に当てはまるものを 2pt、3 番目に当てはまるものを 1pt として集計した値で、集計 pt 率は集計 pt の計 (27,440) を 100 とした割合
※率は、回答者数の計 (7,321 人) を 100 とした割合